



生物資源研究所  
長 根路銘 国昭氏

## 最古のインフルエンザ発見した『源氏物語』



新作待ち遠しい

国立感染症研究所や世界保健機関（WHO）などでも要職を歴任したウイルス研究の国際的権威。現在は沖縄の野生植物が持つ抗がん成分を研究している。根路銘氏は獣医博士号を持っており、自著の執筆の参考に医師

研究分野の論文や文献を読むことがほとんどだが、印象深い文学作品が2冊ある。その一つが紫式部の『源氏物語』だ。現在、がんの研究を故郷・沖縄に戻り行っているが、専門はウイルスの研究。1998年に豪州でウイルス分野の国際シンポジウムがあった。そこでインフルエンザの最も古い記述を持つのはどこの国かという話になり、英國や米国、ロシアなども手を挙げ、各国調べることになった。

それ以前に日本のインフルエンザの歴史調べたことがあり、江戸時代の元禄年間に流行した記録があった。だが、それよりも古い記述があるはずだと思い

たが、ついでにその記述を読み進めていくと「夕顔」で、源氏はインフルエンザにかかって死んでしまった。そして亡くなつた夕顔を思い、会えない悲しさで源氏が泣く様子が書かれている。

●

ウイルス学会で発表したが、そのような場で『源氏物語』について発表したのは、私くらいだろう。結局その時、各国で最も古い記述は私の発表だった。日本の記述文

化は素晴らしいものだ。もう1冊、文学作品で印象に残っているのは森鷗外の『山椒大夫』だ。94年ごろに出版社から、初めて本を書いてくれないかと私に声がかかった。しかし、論文は書き慣れているものの、本の

書き方が分からない。そこで論文風ではなく散文風に書けば、読む方も書く方も分かりやすいと思いつた。情景が短い文で表現されており、この本を参考に執筆した。また、書籍ではないが、最近読んだ論文のレビューでは、がん遺伝子は人間の進化速度よりもハイスピードで進化し、変異しているということだつた。ウイルスもそうだが、がんも“意志”を持つて立に向かうには、がん遺伝子のたくましく生きる進化の姿を知る必要がある。人間は自然のほとんどを理解できていないうといふこと谦虚さを持つて、研究に臨まなければいけないと考へていて

（日休刊） 昭和15年8月17日第3種郵便物認可

# 日刊 THE NIKKAN 工業 新聞 KOGYO SHIMBUN

11月30日曜日

2015年(平成27年)